BRAND
NEW
LANDSCAPE
カンヌ国際映画祭 監督週間 日本人史上最年少選出
監督・脚本：団塚唯我
黒崎煌代 遠藤憲一 井川遥 木竜麻生
菊池亜希子 中村蒼 中山慎悟 吉岡睦雄
蘇鈺淳 服部樹咲 石田莉子 荒生凛太郎
見はらし世代
――2025年、未明
家族、東京、あたらしい景色
10.10
QUINZAINE
DIRECTORS' FORTNIGHT
CANNES 2025
第78回
カンヌ国際映画祭
監督週間正式出品

日本から届いた小さな奇跡

——ジュリアン・レジ
（カンヌ国際映画祭 監督週間アーティスティック・ディレクター）

INTRODUCTION

世界から注目を浴びる
団塚唯我監督の長編デビュー作。

今年5月、第78回カンヌ国際映画祭の監督週間に日本人史上最年少、26歳の監督作品が選出された。オリジナル脚本・初長編作品でその快挙を成し遂げたのは、短編『遠くへいきたいわ』（ndjc2021）で注目を集めた団塚唯我監督。主人公の青年・蓮と、結婚を控え将来について悩む姉。そして母の喪失をきっかけに姉弟と疎遠になった、ランドスケープデザイナーの父。渋谷の街を舞台に、関係をふたたび見つめ直そうとする彼らを描く本作は、普遍的な家族の風景から、都市の再開発がもたらす影響までを繊細に描き出す。きわめて軽やかに、ただ、決して切実さは失わずに。観客に開かれた、新人監督の瑞々しい感性による新しいスタイルの日本映画が誕生した。

STORY

再開発が進む東京・渋谷で胡蝶蘭の配送運転手として働く青年、蓮。ある日、蓮は配達中に父と数年ぶりに再会する。姉・恵美にそのことを話すが、恵美は一見すると我関せずといった様子で黙々と自分の結婚の準備を進めている。母を失って以来、姉弟と父は疎遠になっていたのだ。悶々と日々を過ごしていた蓮だったが、彼はもう一度家族の距離を測り直そうとする。変わりゆく街並みを見つめながら、家族にとって、最後の一夜が始まる——

監督・脚本	団塚唯我
企画・製作	山上徹二郎
製作	本間憲　金子幸輔　長峰憲司
プロデューサー	山上賢治
アソシエイトプロデューサー	鈴木俊明　菊地陽介
撮影	古屋幸一
照明	秋山恵二郎　平谷里紗
音響	岩崎敢志
編集	真島宇一
美術	野々垣聡
スタイリスト	小坂茉由
ヘアメイク	菅原美和子　河本花葉
助監督	副島正寛
制作担当	井上純平
音楽	寺西涼
宣伝美術	藤田裕美
制作プロダクション・配給	シグロ
配給協力	インターフィルム　レプロエンタテインメント
宣伝	共同ピーアール　フリーストーン

2025年｜カラー｜115分｜2:1｜5.1ch｜DCP　G

助成
文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

©2025 シグロ／レプロエンタテインメント

［見はらし世代］公式ウェブサイト

10.10 FRI Roadshow

渋谷駅 宮益坂口・B2出口すぐ
Bunkamura ル・シネマ 渋谷宮下
050(6875)5280

JR新宿駅中央東口　徒歩2分　武蔵野ビル3F
新宿武蔵野館
03(3354)5670　shinjuku.musashino-k.jp

UPLINK 吉祥寺